

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

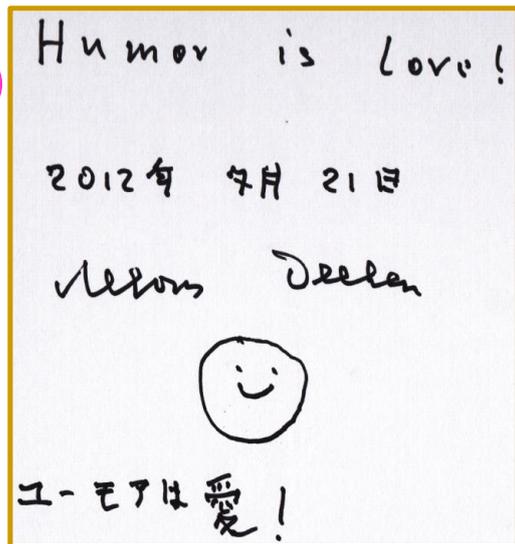
発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.16 2012年 7月号

文責：桜井 由美子・大津 陽子 編集：小木曾 理佐

みなさま、こんにちは。今月の緩和ケア通信を担当します、がん化学療法看護認定看護師の桜井とがん性疼痛看護認定看護師の大津です。暑い日々が続きますが、皆様どうお過ごしですか？今回は平成24年度岐阜県立多治見病院緩和ケア市民公開講座のご報告を致します。この暑さが信じられないくらい涼しかった7月21日(土)、上智大学名誉教授アルフォンス・デーケン先生をお迎えし「輝いて生きるために～死とどう向き合うか～」というテーマでご講演を頂きました。雨天の足元のわるい中、358名の方にご参加頂き大盛況の中講演終了となりました。その講演内容を少しお伝えします。タブー化傾向にある「死」というテーマですが「もし1人の人間によって、少しでも多くの愛と平和、光と真実が世にもたらされたなら、その一生には意味があったのである」という神父さんの言葉とともに明るい見方の紹介や、もう時間がないと考えるのか、まだ時間があると考えるのかという死や時間に対する考え方について等のお話がありました。愛と思いやりのあられであるユーモアを大切にすることのお話もあり、それを象徴するかのように先生のご講演はユーモアで溢れ、笑いがこぼれるお話もありました。「死」は人生の同伴者というデーケン先生の言葉があります。講演会にも様々な年代の方がみえましたが「死」があることは共通しており、誰も他人事ではありません。先生からのご講演を聞き「死」について考えると同時に「生」をどう輝かせるかについて考えることができ、「死」というテーマでしたが前向きな気持ちになりました。今後も緩和ケアチームとして活動していく中で、症状緩和と共に患者さんと主治医の先生、病棟・外来の患者さんを支えるスタッフの皆さんと共に時間の過ごし方・その方らしくどう輝いて生きるかを考えていきたいと思いました。来年の市民公開講座も是非ご期待ください。



緩和ケア病棟へ色紙をいただきました。



8月の勉強会予定

第3回 緩和ケア勉強会

日時：8月9日(木) 18時～19時半

場所：中央診療棟3階講堂

内容：前半(18:00～18:45) 『体のだるさの治療とケア』 (呼吸器内科:志津 匡人)

後半(18:45～19:30) 『緩和ケアチームスタッフからのお話』

(理学療法士:玉田 末明・作業療法士:寺下 美智子)